

○様々な花が咲き、生き物が動き出す季節

○公園を彩る多種多様な植物たち

4月5日から4月19日は、二十四節季の『清明（せいめい）』の時期です。春の季語にも使われるこの言葉は、その名の通りすべての生き物が清らかで生き生きと活動し始める季節を意味しています。

○春の野草を探してみよう



①カントウタンポポ

カントウタンポポの特徴

日本固有の在来種ニホンタンポポのひとつで、外来種のセイヨウタンポポと違い、春にしか咲かず、総苞片（そうほうへん）が反り返らずに花を包んでいるのが特徴です。



タチツボスミレの特徴

日本国内の山間や海岸に自生している、丸いハート形の葉が特徴的なスミレです。花の時期は4月から5月で、左右対称の美しい花を咲かせます。



②タチツボスミレ

ムラサキサギゴケとは？

園内のやや湿った場所に生えていますが苔の仲間ではありません。白い品種のサギゴケの花の形がサギの飛び立つ姿に似ていることから名付けられたそうです。



③ムラサキサギゴケ

シャガは外国からきた花

人里近くの山林のやや湿った薄暗い場所に咲くシャガは、室町時代に日本に渡来し野生化して帰化植物となりました。林下で青白く咲く姿は神秘的な印象を受けます。



④シャガ

○鮮やかな藤の花

4月後半から藤の花が咲き始めます。その花の甘い香りに誘われて、様々な昆虫が集まってきます。フジの花は、万葉集で27首に登場し、昔から風情のある花として人々に親しまれています。園内のあちこちに藤棚が設置され、また、木々の間に伝っているダイナミックな個体もあり、様々なフジの姿を楽しむことができます。



⑥フジ

○伝統的なニワトコの使い方

ニワトコは樹皮や枝を入浴剤として使用したり、花を黒焼きにしたものや枝葉を煎じたものをニワトコ茶として飲むといった伝統的な風習が、日本だけではなく世界各地に存在します。春に白い小さな花を咲かせ、夏に赤い実がなります。



⑦ニワトコ

○花が咲き生命力満ち溢れるこの時期に、公園を散策して生き物の力強さを感じてみてはいかがでしょうか。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

